

令和3年度新温泉町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本地域は、全水田面積の約6割で主食用米を作付しているが、加工用米や飼料用米等の非主食用米の作付にも積極的に取り組んでいる。また、酒造好適米「兵庫北錦」の生産地として、需要に応じた作付を行っている。

転作作物については、地域特産物であるピーマン・大納言小豆・そばの作付を中心に取り組んでいる。野菜作付は少量多品目の生産が主流であるが、道の駅浜坂の郷をはじめ町内の直売所の充実を図り、地産地消を推進するためにも野菜・花きの作付を推進していきたい。

しかし、農業従事者の高齢化や担い手不足、獣害による被害が深刻な問題となっており、耕作放棄地の発生防止も大きな課題である。

また、新規就農者の確保や集落営農組織等の安定的な農業経営を行う担い手を育成し、水田の維持に努めていく必要がある。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本地域は、積雪も多く圃場整備されていない小さな水田が多く存在している。

地域の特性を生かした高収益作物の導入として、ピーマンと大納言小豆のさらなる拡大に取り組んでいく。ピーマンは、「たじまピーマン」として需要があるため、栽培面積の拡大、品質・収量の向上を目指す。大納言小豆は、「美方大納言小豆」としてブランド化を図るとともに、機械化による省力栽培を推進する。

また、高収益作物である朝倉山椒についても、栽培面積拡大を推進する。

さらに、そば・エゴマは耕作放棄地発生防止に有効な作物だと思われる。特に、そばは栽培期間が短く、収穫から乾燥まで作業委託が可能であり、栽培面積拡大が図りやすい。あわせて、排水対策の徹底による品質・収量の向上を図り、農家所得の向上につなげていく。

今後は、年間を通じた野菜栽培を推進するため、ハウス栽培も推進していきたい。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

中山間地域に位置し水稲作付が主である本地域では、畑地化は難しい状況であると思われる。今後、本格的に畑地化に取り組みたい農業者がでてきた段階で、畑地化に取り組んでいく。

なお、水稲作に活用される見込みがない農地については、作付体系を水田台帳等を活用して定期的に点検し、畑地化支援を含め検討していく。

4 作物ごとの取組方針等

町内の約912ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、作物生産の維持、拡大を図ることとする。

(1) 主食用米

需要に応じた米生産を推進するため、兵庫県農業活性化協議会から提示される

「生産目安」を農業者へ提供する。

多収穫米の作付にも積極的に取組み、集落営農組織や担い手農家等の作期分散を図り、農業者の所得向上を目指す。

また、高付加価値米の振興として、つちかおり米、みかた棚田米、ふるさと但馬米、こうのとりのり育むお米等の推進を行う。

(2) 備蓄米

取組実績はないが、需要動向に応じて推進を図る。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

地域の実需者との契約に基づき、現行の栽培面積を維持する。

イ 米粉用米

取組実績はないが、実需者から要望があれば取り組んでいく。

ウ 新市場開拓用米

取組実績はないが、集荷団体等から要望があれば取り組んでいく。

エ WCS 用稲

取組実績はないが、実需者から要望があれば取り組んでいく。

オ 加工用米

主食用米からの転換を推進していく。また、酒造会社等との連携を強化し栽培面積の拡大を推進していく。

(4) 麦、大豆、飼料作物

大豆については、実需者ニーズに応えた品種（サチユタカ、あやこがね）を中心に現行の栽培面積を維持する。また、排水対策や肥培管理の徹底により品質・収量の向上を図ることで経営の安定化を図る。

飼料作物については、但馬牛生産振興とともに、畜産農家のコスト低減のために生産拡大を図っていく。

(5) そば、なたね

そばについては、需要に応じて、生産拡大を図っていくとともに、排水対策の徹底により品質・収量の向上を図る。

(6) 高収益作物

ピーマン、大納言小豆、朝倉山椒、エゴマ等地域特性を活かす振興作物栽培を確立する。

また、道の駅や町内直売所の充実を図り、地産地消を推進するため少量多品目の作物作付も推進する。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	令和5年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	532.7	526.8	520.0
備蓄米	0.0	0.0	0.0
飼料用米	2.8	2.7	3.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0
新市場開拓用米	0.0	0.0	0.0
WCS用稲	0.0	0.0	0.0
加工用米	2.5	4.0	5.0
麦	0.0	0.0	0.0
大豆	3.1	3.4	4.0
飼料作物	11.8	12.6	14.0
・子実用とうもろこし	0.0	0.0	0.0
そば	12.7	15.5	16.0
なたね	0.0	0.0	0.0
高収益作物	57.8	57.6	59.0
・野菜	31.4	31.4	32.0
・花き・花木	7.1	7.1	7.0
・果樹	6.2	5.4	6.0
・その他の高収益作物 (小豆・山椒)	13.1	13.7	14.0
畑地化	0.0	0.0	0.0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				前年度（実績）	目標値
1	ピーマン	ピーマンの作付支援	取組面積拡大	(2年度) (1.3ha)	(5年度) (1.7ha)
2	美方大納言小豆	美方大納言小豆の作付支援	取組面積拡大	(2年度) (6.2ha)	(5年度) (6.9ha)
3	エゴマ	エゴマの作付支援	取組面積拡大	(2年度) (1.0ha)	(5年度) (2.0ha)
4	一般作物	一般作物の作付支援	取組面積拡大	(2年度) (7.9ha)	(5年度) (8.5ha)
5	そば	そばの環境保全型農業取組支援	取組面積拡大	(2年度) (12.7ha)	(5年度) (16.0ha)
6	ピーマン、美方大納言小豆、エゴマ、そば、加工用米	担い手加算	取組面積拡大	(2年度) (15.9ha)	(5年度) (18.0ha)
7	飼料作物、飼料用米、WCS用稲	耕畜連携助成（わら利用、水田放牧、資源循環）	取組面積拡大	(2年度) (5.1ha)	(5年度) (6.2ha)
8	ピーマン	基準収量出荷加算	基準収量を達成する面積の拡大	(2年度) (-ha)	(5年度) (0.8ha)

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。